

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月9日

【評価実施概要】

事業所番号	872200290		
法人名	社会福祉法人 すはま会		
事業所名	陽だまり		
所在地	鹿嶋市平井1350-332 (電 話) 0299-82-9080		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年1月14日	評価確定日	平成20年7月9日

【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	4.7人

(2) 建物概要

建物構造	耐火建築	造り
	3階建ての	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(平成19年12月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	1	要介護4	4
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿島病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、長年老人福祉事業に携わっており、高齢者の生活設計や心身の状況に応じて住み替えができるシステムを創造している。
ホームは多機能性を強化し、デイサービスやショートステイの受け入れが可能であり、ホーム利用者との良好な関係を構築している。
利用者一人ひとりの心身状況を見極め、その人らしく尊厳のある暮らしができるよう、きめ細やかに支援している。
和室や居間の採光に気を配るとともにソファやリクライニング椅子を設置するなど、利用者が心地良くゆったり寛げるよう配慮している。
かかりつけ医の受診や嘱託医の往診、年2回健康診断を実施する等、利用者の健康管理を十分行っている。
利用者の満足度を高めるため、ケアマネジメントのプロセスを継続的に進めており、質の高いサービスを提供している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である利用者の権利に関する事項については、契約書に明示している。 玄関についても、整理・整頓を行い、適切に改善している。 玄関の施錠のみ利用者の行動障害に伴う危険回避のため、改善が困難となっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を全職員に周知するとともに、グループホーム委員会で課題について話し合い、利用者の権利に関する時効の明示や玄関の整理・整頓などの改善を行っている。 自己評価を、全職員で意見交換しながら実施している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議要綱を作成し、委員を選出している段階であり、開催するまでには至っていない。 今後は、運営推進会議開催に向けた働きかけを行うとともに、会議で委員からの意見を引き出し、サービスの向上に活かす取り組みを期待する。 市の委託事業であるやすらぎ支援員の研修講師や地域ケアシステムのメンバーとして、地域に貢献するなど、市と関わりを継続しながら連携している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情・相談窓口や担当者、県や市などの外部機関を明示するとともに、ホームの玄関に意見箱を設置している。 「陽だまりニュース」を発行し、ホームの取り組みや思い出の写真などを掲載している。 また、金銭出納の報告や半年毎に健康診断の結果を含めた近況報告を家族に送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育園児やホームのデイサービス利用者と交流するとともに、設置法人の施設で行う行事に参加している。 利用者の高齢化や身体機能低下に伴い、地域活動への参加や地元の人々との積極的な交流は厳しい状況となっている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域福祉社会の構築やサービスの質の追求を図るなど、法人の理念を共有している。	○	地域密着型サービスとしての役割を目指した事業所独自の理念を作り上げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、ミーティング時、理念を唱和し、職員間で共有するとともに、グループホーム委員会で理念の実現に向けた話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児やホームのデイサービス利用者とは交流するとともに、設置法人の施設で行事を行うときには参加している。 利用者の高齢化や身体機能低下に伴い、地域活動への参加や地元の人々と積極的な交流が厳しい状況となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を全職員に周知するとともに、グループホーム委員会で課題について話し合い、利用者の権利に関する事項の明示や玄関の整理・整頓などの改善を行っている。 自己評価を全職員で意見交換をしながら実施している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議要綱を作成し委員を選出している段階であり、開催するまでには至っていない。	○	運営推進会議の開催に向けた働きかけを行うとともに、会議で委員からの意見を引き出し、サービスの向上に活かす取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の委託事業であるやすらぎ支援員の研修講師や地域ケアシステムのメンバーとして、地域に貢献するなど、市と関わりを継続しながら連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「陽だまりニュース」を発行し、ホームの取り組みや思い出の写真を掲載している。 また、金銭出納の報告や半年毎に健康診断の結果を含めた近況報告書を家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口や担当者、県や市などの外部機関を明示するとともに、ホームの玄関に意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	採用時は人物調査を重視し、利用者に受け入れてもらえるような人を採用するなど、配慮している。 2年間は離職・異動はなく、馴染みの職員が対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の年間教育計画をたてるとともに、講師を招いて内部研修や外部研修を受講できる体制を構築している。 研修を受講した職員は、研修報告書を作成するとともに、グループホーム委員会で研修内容を報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の個人的交流に留まり、同業者との交流・連携に取り組んでいない。	○	同業者との交流を通して、事業者同士が協働しながら、サービスの向上や職員育成に役立つよう、連携を図る取り組みを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や在宅訪問を通して関わりを持ったり、グループホームの通所介護を利用し、利用者と馴染みの関係を築いたうえで、サービスを開始している。 やむを得ず、すぐに利用となった場合は、家族の協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と生活する中で利用者の人生経験から学ぶことがあり、日々の関わりの中で利用者に癒されるなど共に支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族から希望や意向を聴取するとともに、月1回のグループホーム委員会で思いや気付きなどを話し合い、ケアプラン立ち上げシートに記載し、把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き家族を交えて話し合うなど、利用者一人ひとりの満足や要望に応えられるよう、ICF（国際生活機能分類）に基づきアセスメントを行い、利用者本位の介護計画を作成している。 家族に介護計画の説明を行い、介護サービス計画承認書に同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月グループホーム委員会で利用者の満足度・変化・実践状況等を話し合い、モニタリング記録表を活用し、評価している。 また、状態の変化時は見直し、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイサービスの利用ができるよう、多機能性を強化している。 デイサービスの利用者の受け入れやグループホーム入居への住み替え等、柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医の受診が継続できるよう支援している。 また、月2回嘱託医の往診があり、年2回健康診断を実施するなど、健康管理に配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	嘱託医や併設施設の看護師と連携を図るとともに、重度化や終末期の対応は設置法人内の施設で対応している。	○	利用者の状態に応じて利用者・家族と話し合い、意志を確認するとともに、医療機関と密接な連携を図り、重度化や終末期における対応等について、マニュアルを作成することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に優しく・さりげなく接するとともに、誇りやプライドを傷つけないよう対応している。 個人情報の利用目的を明確にし、書面にて家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースで生活できるように、希望を取り入れながら支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員がそれぞれの食卓を囲み、和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。 片付けなど、利用者のできることは見守りながら一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の身体機能を考慮した入浴支援を行っており、安心・安全につながっている。 入浴を好む利用者一人ひとりの希望に合わせ、気分良く入浴できるよう配慮している。 また、利用者に季節感や香りを楽しんでもらえるよう、菖蒲湯や柚子湯を取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	献立表の記入や掃除・花の水やりなど利用者一人ひとりのできることを把握し、力の発揮できる場面をつくっている。 また、ドライブや花見など気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、ドライブや買い物・散歩など外出できるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動障害に伴う危険回避のため施錠している。 玄関の施錠について、重要事項説明書に明示するとともに、書面にて掲示するなど、家族・来訪者に理解・周知を図っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て年1回は避難訓練を実施するほか、法人内の併設施設等と合同訓練を定期的に実施している。 災害用の非常食等を備蓄するとともに、災害対策マニュアルを作成している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士による栄養バランスに配慮した献立となっている。 利用者一人ひとりの嚥下状態に合わせた食事を提供し、摂取カロリーや水分摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室や居間の採光に配慮するとともに、共用空間に絵画や生け花を飾り、ソファ・リクライニング椅子を設置するなど、利用者が心地良くゆったり寛げるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には椅子やテレビなど使い慣れた物品を持ち込むとともに、家族の写真を飾るなど、安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。